

【聖書箇所 요약】

会堂司ヤイロの一人娘が死にそうになったので、彼はイエス様に来て下さるように頼みました。その途中、娘は死んだと知らせがありました。イエス様は彼の家に行き、娘をよみがえらせました。

1. 会堂司ヤイロという人物

A. 会堂司とは

- (1) 会堂管理者（新改訳）、会堂長（新共同訳）
- (2) 会堂司の職務
 - ・会堂の維持管理
 - ・礼拝奉仕者の管理…祈り手、聖書朗読者、説教者の選定
- (3) 地域で重要な役目を担い、人々の尊敬を集める人物

B. ひとり娘の父親として

- (1) 娘は病で死にそうであった
- (2) 公的立場と私的立場

C. 神の御計画

- (1) プライドを捨てる
- (2) どうしようもなくなった時こそ一心に神に向かうことができる

2. ゆだねた時のアップダウン

A. ゆだねたからといって平安ではない

- (1) 長血の女の登場
- (2) ヤイロは気が気ではなかった
- (3) ゆだねた後は神中心に事が運ぶ

B. 人間の限界との出会い

- (1) 娘の死の知らせ
「イエスがまだ話しておられるうちに、会堂司の家から人がきて、『お嬢さんはなくなられました。この上、先生を煩わすには及びません』と言った。」（ルカによる福音書 第8章49節）
- (2) この世は「死をもって全ては終了」の世界

C. 救い主との本当の出会い

「しかしイエスはこれを聞いて会堂司にむかって言われた、『恐れることはない。ただ信じなさい。娘は助かるのだ。』」（ルカによる福音書 第8章50節）



- 神を信じる世界では最悪と最善は背中合わせ。最悪の次の瞬間に最善が待っています。その最善を選び取るためには、最悪としか見えない現実の向こうに最善があると信じる信仰が必要です。しかし理性はそれを阻害します。ですから神は人間の限界を容赦なく見せ、私たちを追い込み、信仰の世界に飛び込む決心をさせるのです。

3. 行き詰まらない人生がある

A. よみがえりの信仰

●ヤイロが信仰告白をしたという直接の記事はありませんが、確かに彼の心はイエス様を信頼する心になりました。それは次の個所から伺い知ることがます。

「それから家にはいられるとき、ペテロ、ヨハネ、ヤコブおよびその子の父母のほかは、だれも一緒にはいつて来ることをお許しにならなかった。」 (ルカによる福音書 第8章51節)

イエス様の言葉を信じずに、死という現実だけを見、それが全てだと思っていた人たちは、たとえ弟子であっても近親の者であっても、家の中に入れてもらえなかったのです。弟子の中でも3名だけ、そしてヤイロとその妻だけが「恐れることはない。ただ信じなさい。娘は助かるのだ」とのイエス様の言葉を信じ、その言葉にすがりつき、そして奇跡を目にする結果となるのです。

B. 神が導かれる世界の歩き方

- (1) 御心と信じて進んでも八方塞がりになることがある
- (2) 心が震え、シナリオ通りに行かない世界
- (3) 人間の限界の先に神が導かれる世界があることを信じて生きる



今日の
ポイント

人間の限界が神の世界の始まりです。行き詰まっても安心していきましょう。そこから先の展開は神が導いて下さった結果なのです。

— 祈禱会説教 —

イエスに出会った人々シリーズ (その18)

会堂司ヤイロ

41 するとそこに、ヤイロという名の人がきた。この人は会堂司であった。イエスの足もとにひれ伏して、自分の家においでくださるようにと、しきりに願った。

(ルカによる福音書 第8章41節)

- 8 わたしたちは、四方から患難を受けても窮しない。途方にくれても行き詰まらない。
- 9 迫害に会っても見捨てられない。倒されても滅びない。
- 10 いつもイエスの死をこの身に負っている。それはまた、イエスのいのちが、この身に現れるためである。

(コリント人への第二の手紙 第4章8節～10節)



2018
6/20
説教
丸山 芳浩 師